

# 委員会の動き

## 総務委員会

付託された議案十二件は全会一致で可決、陳情二件は継続審査と決した。

伊予市副市長の定数を定める条例について、副市長になった場合、役割や権限はどう変わるのか尋ねたところ、政策や企画に関わる部門が追加される。また、市長が権限を委任した部門については副市長の判断により行える。どの部門を委任するかは委任規則で定めるとの答弁であった。

市長、助役及び収入役の給与及び旅費に関する条例について、どのように変わるのか尋ねたところ、十九年一月から宿泊料・運賃は基準の金額で受け取っておき、後に領収書を付けて実費で精算するととの答弁があった。

本郡消防団詰所新築工事費の坪単価が高いのではないかと尋ねたところ、伊予市消防施設等の管理に関する要綱により、防災拠点のため鉄骨造で、一般住宅よりも耐震性を考え強度を一・五倍にしている。

それと資材単価が高くなっているとの答弁があった。これに対し、基準単価を再検討するよう要望した。

## 民生文教委員会

付託された議案十二件は原案可決、陳情六件は継続審査と決した。

愛媛県後期高齢者医療広域連合の設立に関し、発足後の保険料の周知時期及び徴収方法を尋ねたところ、十一月に県下で統一された保険料が決定し、その後二十年四月の施行に向けて説明を実施する。徴収方法は受給年金から徴収する方法と納付書を送付し普通徴収する方法があり、普通徴収は各市町が徴収し納付するとの答弁があった。

一般会計補正予算の教育費中事務局費の給料約五百万円減額について、人事異動による一人減によるとの説明に対し、この人員で対応できるのかと尋ねたところ、現在の職員数では事務に無理が生じており、職員増を要望しているが難しい現状であるとの説明があった。これに対し、昨今の教育環境が問題が山積して

おり、十分に対応できる人員配置を強く要望した。

次に、学校管理費の手動車いす対応型昇降機購入費に関する耐用年数・保障期間を尋ねたところ、耐用年数は七〜八年で保障期間は一年である。

二年目以降は有料によるメーカーでの保守点検が望ましいとの説明があった。また二機種あり、小さい機種で市役所及び学校で試運転したとの説明に対し、再度大きい機種での試運転を行い、使用者にとってより良いものを購入するよう要望し、あわせて試運転時には民生文教委員も参加させてほしいとお願いした。

## 産業建設委員会

付託された議案十件は原案可決、陳情二件は趣旨採択、継続審査と決した。

伊予市公園条例の一部を改正する条例については、双海地域の公園で、使用料を取つてなかった二施設について、他の公園の施設利用との公平性をとることからの改正で理解はできるが、旧双海町がこの施設をつくった過程等の中で無料としてきた。今回の改

正について説明し理解を得た上での改正かと尋ねたところ、地元の方々には説明は行っていないが、議決後にポスター、チラシで使用者に啓発をしていきたいと考えているとの答弁があった。公平性の観点からの条例改正であると思うが、地元からの説明の要望があれば、理解をいたすため説明会の開催を強く要望した。

農地費の上野高瀬地区水路改修測量調査業務委託料について、松前町内の水路の調査業務と話し合えることであるが、松前町と話し合いができていないかと尋ねたところ、県道バイパス工事の際に、現在一メートル四方のJR軌道敷下の暗渠を広げるということについて松前町との約束ができており、今回の調査業務は、上流で毎秒二トンを分注した際に、下流域で問題がない旨を松前町神崎・出作・鶴吉地区住民に対し説明するため、水路の縦横断、流量等詳細なデータを得ようとするもので、調査業務の実施については、松前町を通じて関係区長に説明、了解を得ているとの答弁があった。これに対し、松前町住民に対して、十分に説明をし、理解してもらうよう要望した。

## 編集後記

年末年始も比較的過ごし易い天候で、皆さん健やかな新春を迎えられたことと思います。近年、地球温暖化の影響が世界中で毎年のように襲来しているのではと不安になる事例が多々あるように思われます。この暖冬もその一例ではないかと心配です。

政治の世界に目を向けても国のみならず、県・市町村も行政改革推進の必要性から目まぐるしいスピードで変化が進んでいくと考えられます。今後道州制への移行も含め、さらなる合併も現実味を帯びてくるかもしれません。

議員一同、より良い地方自治のため研鑽に努めて参ります。皆さんの貴重なご意見を当委員会・議会までお伝え下さい。共同参画でより良い伊予市にしていきましょう。

文責 大西 誠

議会だより編集委員会

- 委員長 山崎 正樹
- 副委員長 大西 誠
- 委員 青野 光
- 委員 久保 榮
- 委員 岡田 博
- 委員 日野 健助
- 委員 水田 恒二